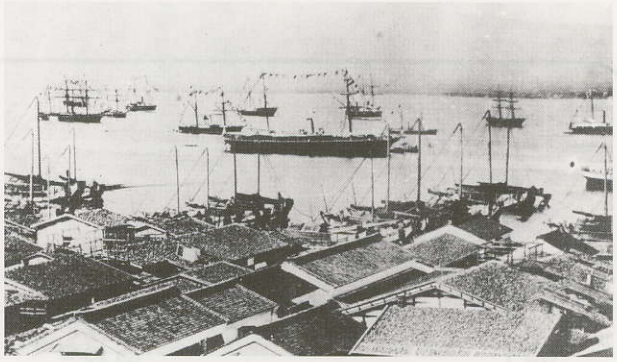
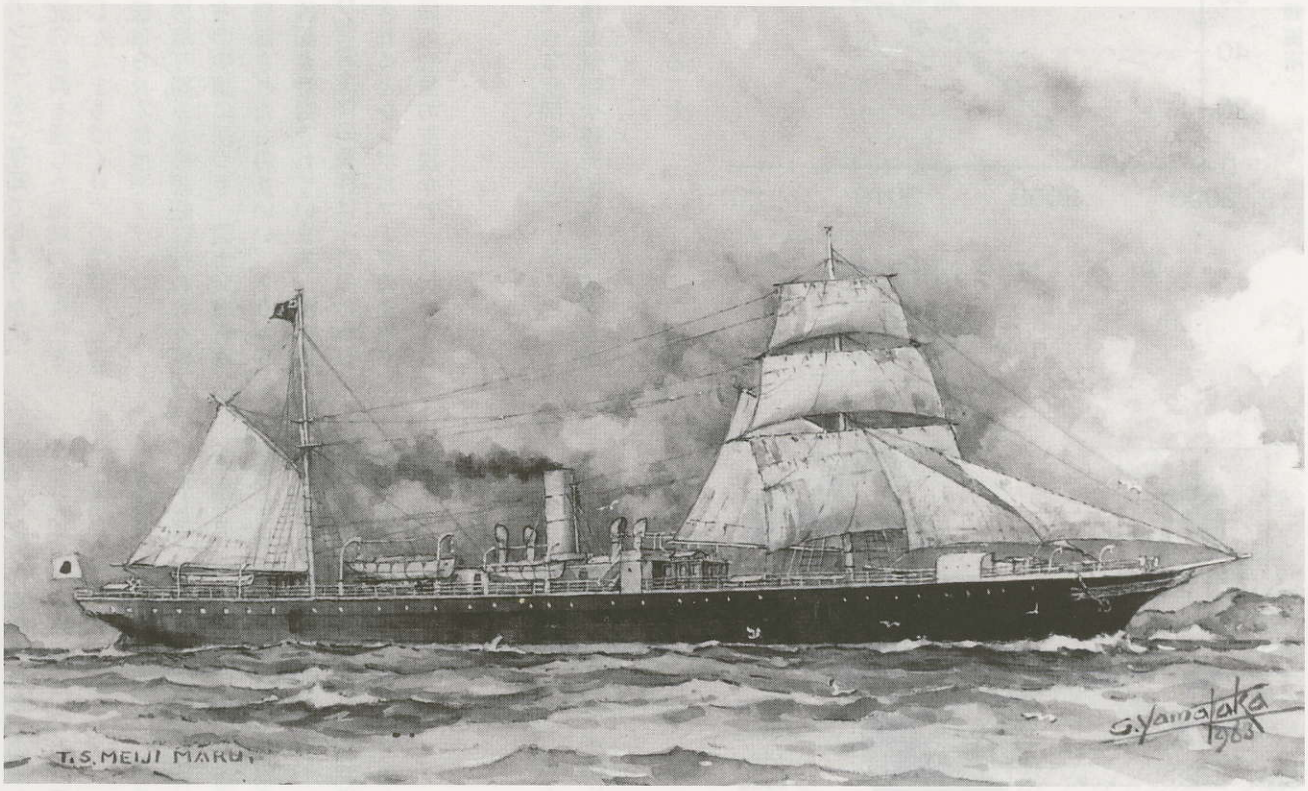
小笠原領有に貢献した明治初期の最優秀汽船

文・山田廸生（日本海事史学会副会長）



函館港のお召船「明治丸」（東京商船大学『明治丸史』より）



新造時の「明治丸」を描いた絵葉書（山高五郎画）

明治丸

≪主要目≫ 灯台視察船、鉄製、工部省灯台寮所属。総トン数1,028トン、長さ68.6メートル、幅9.1メートル。主機レシプロ汽機２基（Inverted Compound Engine）、２軸、出力254公称馬力、最高速力12.7ノット。２檣トップスル・スクーナー帆装。工部省の発注により1874（明治７）年英グラスゴーのネピア造船所Robert Napier & Sonsで竣工。翌年横浜に回着。灯台巡回業務に従事。1896（明治29）年商船学校に移管。1898（明治31）年３檣シップ型帆船に改造。以後、1945（昭和20）年まで係留練習船となる。1927（昭和２）年主機撤去。1964（昭和39）年陸上固定。1978（昭和53）年国の重要文化財に指定

「明治丸」は汽船か、帆船か？

明治の初め、工部省の灯台視察船「明治丸」が、英グラスゴーのネピア造船所で誕生したとき、推進装置として、レシプロ汽機2基（2軸）を搭載し、その補助として、2檣、トップスル・スクーナー型の帆装を備えていた。19世紀後半の航洋船の多くは、推進汽機のほかに、補助帆を持っていたのである。

こうした船は、「汽船」というべきか。それとも「帆船」というべきか。

表記を確定する決め手はいくつかある。

たとえば、工部卿伊藤博文が灯台寮お雇いの英国人A・R・ブラウンに送った1874（明治7）年8月10日付の指令書がある。その大要は、完成後の「明治丸」の受取りと、横浜への回航の指揮をブラウンに指令したもので、文中、同船を「Steam Ship Meiji-Maru（汽船・明治丸）」と表記している。

ちなみにA・R・ブラウンは、日本の灯台視察船の先駆けである「燈明丸」と「テーボールThabor」の船長をつとめた人物である。後年、日本郵船のゼネラルマネージャーとして、草創期の日本海運界で活躍した。

表記を確定する決め手をもう一つ。1875（明治8）年2月、「明治丸」が横浜に回着したとき、伊藤工部卿が太政大臣三条実美宛に提出した届書がある。この文書では、「明治丸」を「灯台巡廻用蒸気船」としている。

このように、灯台視察船時代の「明治丸」は、「汽船」と表記されていたのである。

小笠原領有確定のため調査航海

横浜回着の年の11月、「明治丸」は小笠原諸島の領有確定のため、調査団を乗せて現地へ航海した。当時、同島には少数の欧米系人が定住しており、領有問題が生じていたのである。新造の「明治丸」は、同月21日に横浜を出航。24日朝、父島二見港に着いた。

いっぽう、日本政府の措置に関心を持った英国公使パークスは、1日遅れの同月22日、横浜総領事R・ロバートソンを砲艦「カーリューCurlew」に乗せ、小笠原に向かわせた。排水量約800トン。スクリュー推進の木造艦である。二見港に着いたのは、26日朝。「明治丸」到着のわずか2日後であった。

先着した「明治丸」の調査団一行は、島民代表を同船に招き、日本政府が小笠原諸島領有を決定したことを伝えた。後着のロバートソンは、上陸して日本調査団と会見したが、領有問題を持ち出すことはなかった。

この調査をもとに準備が進み、翌1876年、小笠原への主権が明確になった。日本は現在、世界第6位の広大な領海・排他的経済水域を確保しているが、その3分の1は東京都小笠原村に属している。小笠原領有のため、「明治丸」がはたした貢献は計りしれない。

海の若人を育てる係留練習船へ

小笠原領有確定の年、「明治丸」は明治天皇の東北巡幸のお召船になった。客室設備が優れていた同船は、ロイヤルヨットの性格を併せ持っていたとされている。青森でご乗船。函館を経由し、7月20日横浜に安着。この日を記念して1941（昭和16）年に「海の記念日」が制定され、1996（平成8）年に国民の祝日「海の日」となった。

小笠原航海の約20年後の1896（明治29）年、「明治丸」は商船学校（東京海洋大学海洋工学部の前身）に移管された（当初は貸与）。ときは日清戦争後の海運発展期であり、海運界は多くの船員を必要としていた。

品川の緒明造船所で、3檣、シップ型の係留練習帆船に改造された。係留場は当初、隅田川の霊岸島校舎沖にあったが、越中島新校舎への移転にともない、校内係留池に移動した（戦後、陸上固定）。以来、1945（昭和20）年までの約半世紀、5千余人の海の若人が「明治丸」から巣立っていった。

1978（昭和53）年、「明治丸」は国の重要文化財に指定された。そして、さきごろ平成の大規模修復工事が終了し、シップ型帆船の麗姿が復活。今秋から、東京海洋大学越中島キャンパスで一般公開されている。